

令和元年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書
(抜粋)

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	12

事業報告書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総 括 事 項	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	
(1) 文化財発掘調査	4
(2) 埋蔵文化財啓発活動	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家	4
(2) いわき市暮らしの伝承郷	5
(3) いわき市勿来関文学歴史館	5
(4) いわき市アンモナイトセンター	6
(5) いわき市考古資料館	6
(6) 福島県いわき海浜自然の家	7
(7) いわき市生涯学習プラザ	7
3 管理部門（法人会計）	9
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評 議 員 会	10
2 理 事 会	10
3 役員等に関する事項	10
IV 職員に関する事項	
1 事 務 局	11
2 施 設	11

I 概 況

1 総括事項

令和元年度は、本事業団の設立から42年目、公益法人に移行後6年目にあたる。これまで同様、公益法人としての役割を認識するとともに、専門性を活かし、職員一丸となって市・県民の心の支えとなるように事業を展開した。

理事会は5回、評議員会は3回開催し、財務に関しては収支相償に留意しながら、公正・公平で透明な事業運営に努めた。

文化財部門は、東日本大震災後の復興事業の収束に伴い、市内の発掘調査が激減し、市内のほか、双葉郡内や矢祭町など市外自治体からの事業が主体となった。事業量は、前年度より3件減の10件、収入額は2,200万円程少ない約9,400万円となった(下表)。

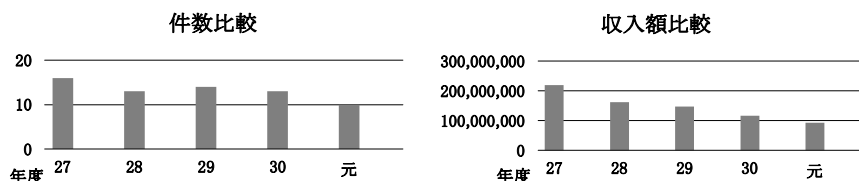
施設部門は、いわき市の組織改編に伴い、勿来勤労青少年ホームの指定管理が終了したことから8施設となり、各施設とも様々な事業を実施した。また、生涯学習プラザにおいては、指定管理期間満了を迎えたが、選考の結果、令和2年度から次期5か年の指定管理が決定したところである。

また、10月の台風19号及び大雨、2月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、施設の利用停止や感染拡大防止のため事業の中止・延期が相次ぎ、全施設の年間利用者は前年度比6.2%の減少がみられた。

本年度の収入は55,510万円となり、経費の節減に努め、約780万円の黒字決算となった。

○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較 (平成27年度～令和元年度)

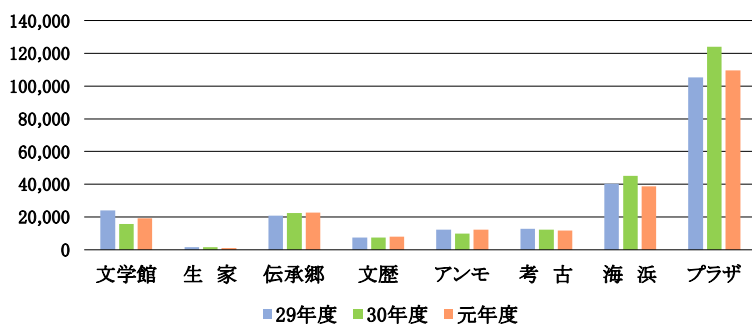
年度	27	28	29	30	元
契約件数 (単位:件)	16	13	14	13	10
収入額 (単位:円)	219,915,000	162,388,800	148,185,720	116,742,600	93,946,360



○ 施設年間利用者数比較 (29・30・元年度) ※勿来関文学歴史館の29年度は指定管理受託前。

	文学館	生家	伝承郷	文歴	アンモ	考古	海浜	プラザ	合計
29年度	24,116	1,408	20,767	7,529	12,162	12,821	40,194	105,209	224,206
30年度	15,787	1,571	22,424	7,494	9,729	12,204	45,020	123,958	238,187
元年度	19,247	1,116	22,565	8,016	12,226	11,723	38,808	109,705	223,406

年間利用者数比較



Ⅱ 業 務

1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）

(1) 文化財発掘調査

ア 事業について

令和元年度に受託した事業は、新規10件である。事業内訳は、いわき市内が6件（試掘調査1件（6遺跡）、確認調査1遺跡、資料整理・報告書作成3件、文献調査1件）、市外が4件（矢祭町資料整理・報告書作成2件、檜葉町資料整理・報告書作成1件、大熊町資料整理1件）である。

試掘調査における主な成果として、梅ノ作瓦窯跡群の調査では奈良・平安時代の須恵器および窯体が出土した。専称寺境域の調査では、江戸時代（寛文年間）の可能性が高い盛土・整地層が検出されている。

埋蔵文化財調査報告書は、概報・市内試掘報告書を含め5冊（市内4冊、市外1冊）を刊行した。

(2) 埋蔵文化財啓発活動

ア 企画展共催

実施月日	実施項目	内 容
5月25日(土) ～7月15日(月)	いわき市考古資料館 令和元年度第1回企画展 「平成30年度発掘速報展」	平成30年度にいわき市内で発掘調査や試掘調査及び整理報告書作成が行われた遺跡のうち、11遺跡の調査成果を一般に公開し、いわきの歴史について最新の情報を提供した。 入館者 847名
6月8日(土) 午後1時30～3時10分	遺跡報告会・講演会	「平成30年度発掘速報展」の関連事業として、試掘・確認調査等が実施された3遺跡の調査成果について、各調査担当職員が報告した。また、展示会場で資料の解説をした。講演会では「令和元年度いわき市指定文化財」について、いわき市文化財保護審議委員による解説が行われた。 参加者 33名

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家

ア 事業について

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は19,247名、昨年比3,460名の増、年間開館日数は312日間であった。

令和元年度は、春、夏、秋と3つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平 蛙の詩」は、心平が蛙の詩を創作した背景、そして様々な解釈によって読者の感性に問いかける表現手法などを、関連資料や彼自身による作品への言及から解説し、その魅力を紹介した。夏の企画展「ぼのぼの原画展」は、直筆の漫画原稿、カラー原画のほか、映像やアニメーション資料などで、いがらしみきお氏の癒しに満ちた優しい作品を紹介した。秋の企画展「草野心平と栗津則雄」

は、近現代詩壇で確固たる地位を築いた草野心平と、評論界の第一人者として今も衰えることのない鋭い視点で活動を続ける栗津則雄名誉館長の業績を、関連資料や二人の逸話などで紹介した。

スポット展示は、「猪狩満直」「草野心平と動物たち」「吉野せいと山村暮鳥」「草野天平 天平と兄心平」を開催し、心平の創作活動の一面やいわきゆかりの文学者、資料、交友を紹介した。

普及活動では、夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。あわせて、「アクアマリンふくしま移動水族館」、小川中学校吹奏楽部による「アトリウムコンサート」などで文学館が立地する小川地区の団体と連携を図った。

いわき市草野心平生家

年間入館者数は1,116名、昨年比455名の減、年間開館日数は312日間であった。

通常の開館時はボランティアの会員が心平と故郷のかかわりを解説し、小川小、中学校の参加が定着した「心平誕生月の記念朗読会」をはじめ、親子連れなどが楽しめるワークショップ「カエルのクラフトワークショップ」、そして、心平の弟天平を偲ぶ「草野天平の集い」などを開催した。

(2) いわき市暮らしの伝承郷

ア 事業について

令和元年度の入園者数は22,565名で、前年度比141名の増であった。

伝承郷の中心事業である景観復元・伝承・管理作業は、「昔の暮らしの景観復元と伝承」をコンセプトに実施し、令和元年度も畑作・里山作りのほか、干し柿作りなど古民家の生活復元展示を実施した。畑作については、栽培する野菜や道具等も、景観復元展示の一環と位置付け、極力昔の方法・道具を取り入れながら実施した。

常設展示事業では、見学資料として、ワークシート「ワクワク探検in伝承郷」を通年で配布した。

学習管理棟の休憩コーナーでは、季節の年中行事に合わせた民具展示のほか、「ロビー展」として「ラジオの歴史展」「信楽の土-神山清子作品展-」「龍生派いわき支部生け花展」などを実施した。また、伝承郷収蔵の農具を用いた脱穀作業の動画をタブレットで自動再生し、来園者に観ていただいた。

企画展示事業では、2回の企画展「いわきの郷土料理」「お雛様」を開催した。

講演会事業は、「明治・大正・昭和の女性と子どもの暮らし～いわきの写真を中心に～」と「いわきの年中行事と季節感」を開催した。

体験学習事業(主催)では、「けん玉道場」などの昔遊びや「布ぞうり作り」「正月飾り作り」など、季節に合わせた内容で年間37回実施した。また「昔遊び体験」「石臼体験」などの学校向け体験や「キッズ民話語り部教室」など、小中学生対象の体験も多く実施した。

伝承郷行事事業では、年中行事の再現展示や伝統芸能実演など伝統芸能の継承・伝承の機会を提供した。

そのほか、ボランティア育成、資料収集・整理作業、民俗調査・レファレンスなどを実施した。

共催事業として、「木よう体験教室」「遠野和紙作り体験」「里山の暮らし体験」など多くの事業を実施し、新たな来園者を開拓する機会とした。

(3) いわき市勿来関文学歴史館

ア 事業について

年間入館者は8,016名で、前年度比522名の増であった。年間開館日数は353日間である。

令和元年度は、3つの企画展を開催した。

第1回企画展「乙字のトランク」は本市ゆかりの俳人大須賀乙字を紹介し、乙字

が近代俳句に果たした役割を紹介するもので、乙字が「季語」という用語を初めて使ったということを知ったという来館者も多く、新たな魅力を発信することができた。対談と講演会にも多くの参加者があった。

第2回企画展「白水阿弥陀堂と徳尼伝説」は、白水阿弥陀堂境域と世界遺産である平泉町の発掘調査の成果を展示し、いわきの武士団と平泉藤原氏との関わりを紹介した。あわせて企画展関連の講演を実施し企画展への理解を深めた。

第3回企画展「出目洞白」は、いわき市出身の能面師出目洞白作の能面や、洞白が故郷下川の寺院に寄進した絵巻を展示し、天下一と称された洞白の作品の意義について紹介した。企画展の関連事業として講演会を実施し好評を博した。

スポット展示は、①「諸根樟一」（平成30年度の継続）②「本多忠籌と「こそこの枝折）」③「徹底解説鳥獣戯画」の3本である。②では泉藩主本多忠籌が領内を巡検した足跡を、資料と写真パネルで紹介した。③では、絵巻(レプリカ)を詳しい解説とともに展示した。

市民ギャラリーの一角に、「いわきの人物」を紹介する常設展示コーナーを新設した。実施済みの企画展資料を再利用し「星一」「諸根樟一」「大須賀乙字」を紹介している。普及活動では、「夏休み工作教室」「冬休みクラフト教室」を実施した。親子での参加が多く世代間の交流を通してものづくりの楽しさを体験することができた。他施設との連携としては、「歴女が巡るいわきの仏像(南部編)」（考古資料館と共催）を実施した。勿来地区との連携としては、「勿来関歌会」・「勿来八景フォトコンテスト」へ館長賞を授与し、さらに作品の展示会場を提供した。

(4) いわき市アンモナイトセンター

ア 事業について

令和元年度における入館者数は、前年度比2497名増(前年度比125.67%)となる12,226名であった。入館者数が増加した理由として、平成30年度は4～6月に露頭整備工事を実施したため大型連休中を含め体験発掘を中止した事により利用者数が伸び悩んだのに対し、令和元年度は大型連休が前年に比べて長く、体験発掘に参加する利用者が多かったことがあげられる。一方、例年の利用者数が伸び悩む晩秋～冬季(第3四半期後半～第4四半期)については、令和元年度も平年と同様に推移しており、同時期における利用者増に向けた試みが依然として課題となっている。また、10月の台風等の大雨による水害や3月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により下半期は前年度に比べて利用者数が落ち込んでいる。

小・中学校の夏休み・冬休み期間をターゲットとして開催した企画展における入館者数は、夏休み企画展で3,812名(前年度比666名減)、冬休み企画展で663名(前年度比359名減)となった。企画展会期中に実施したミニ発掘体験(西アフリカ産の水晶ジオード発掘体験)は、取り出した本物の標本を持ち帰ることができることもあり、これらを目的として来館する利用者も多かった。

更に、地元である久之浜・大久地区との連携事業としての「化石講演会」、啓発事業としての「親子自然探訪教室」を実施した。

(5) いわき市考古資料館

ア 事業について

令和元年度の利用者数は11,723名で、昨年度比481名の減となった。内訳を見ると、入館者数は8,718名で昨年度比1,014名の減、出前講座などの館外利用者数は、25件3,005名で昨年度比19件の減、533名の増であった。また、団体入館者数は46件1,472名で、昨年度比23件513名の減であった。

企画展は、企画展3回とミニ企画展1回のほか、特別展1回の計5回開催した。

講座・講演会は、「いわきの考古学講座」全6回、「親子で自由研究に挑戦しよう!!」、「ボランティア養成講座」及び企画展・特別展に合わせた講演会や解説会、探訪会など計11回開催した。

体験学習会は、「ゴールデンウィーク体験学習会」、「いわきキッズミュージアム」、

「古代まつり」、「干支の埴輪づくり体験会」、「勾玉づくり体験会」、そして、「バレンタインデー特別体験学習会」の6事業13日間開催した。

本館の重要な業務のひとつである問い合わせ等レファレンス対応として、収蔵資料の閲覧・調査9件、同貸出12件、市民などからの問い合わせ・相談12件など、市民及び研究者や学生、関係機関の要望に対応した。また、8月には2名の学芸員実習を実施した。

このほか、経年劣化が原因の雨漏りや設備の故障などが頻発しており、所管課と協議の上、可能なものについては随時修理・修繕を行い、施設の維持・管理に努めた。また、Facebookを利用し、ホームページ内容の充実に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

ア 事業について

令和元年度の利用状況は、475団体、延べ利用者数38,808名を数える。平成30年度(536団体45,020名)と比較すると、団体数で88%、利用者数で86%となり、利用者予測の46,000名よりも7,192名下回った。利用者数減の要因は、10月の台風19号に伴う断水による受け入れ停止(17団体534名)や2～3月の新型コロナウイルスによるキャンセル及び利用団体受け入れ停止(53団体3,438名)によるところが大きい。

学校教育団体のうち、小学校の宿泊活動においては140団体の利用があり、うち、いわき市内の学校は40団体で、前年度より9団体増加しており、学校訪問で当所の取り組みを丁寧に説明したことの成果と考えられる。

主催事業では、断水の影響により「秋のオープンデー」(平成30年度実績1,257名)や「スポーツフェスティバル」(同304名)、新型コロナウイルスにより「森の音楽会」(同184名)を中止した。しかし、その他の事業の参加者は、前年度より「春のオープンデー」が19%増、「クラフトのつどい」が83%増となっており、特に若い世代の家族連れが多く見られ、当所の活動について県民に広く周知され理解を深めていただくことができた。

連携事業では、県内の各自然の家と相互の企画事業に参加するなど連携を深めたが、会津自然の家との共催事業である「ウィンターフェスティバル」は暖冬の影響でスキー場が利用できず中止となった。市内では生涯学習プラザの「生涯学習フェスティバル」や公民館の出前講座などとの連携を図り、利用者の拡大に努めた。

これら各種事業については、広報チラシ・ポスターの配布をはじめ、四倉と久之浜・大久各支所経由による回覧板を有効に活用した。ホームページにおいても事業案内及び実績報告等を随時掲載して広く県民への周知を図り、フェイスブックでの情報発信も開始した。

また、職員の資質向上を図るため、所内外の各種研修へ参加し、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。3月の利用団体受け入れ停止期間中は、線量が高いため利用を停止している冒険の森に代わり、所員が考案した新たなナイトハイクコースの整備を実施した。

(7) いわき市生涯学習プラザ

ア 事業について

令和元年度の施設利用者は109,705名で前年度より14,253名の減、施設使用許可申請件数は528件減の3,240件であった。このうち社会教育関係団体の申請件数は2,351件で501件の減となっている。この大幅な減少の主たる要因は、中央公民館の耐震補強工事に伴う休館により、当プラザで活動していた同公民館登録団体が、同公民館の工事完了による利用再開により、活動の場を戻したことによる。また、台風19号による災害および新型コロナウイルスの影響も大きいものと考えられる。

市民講座は、47の講座を実施した。生涯学習プラザ講座のほか、ボランティア活用事業として、子育て支援ボランティアによる「親子ふれあい体操」「きんぎょすくい」やITボランティアリーダーによるパソコン講座を毎月開催し、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークル・団体が実施するサー

クル企画講座では、「朗読教室」「楽しい朗読」を延べ6講座開催した。

全市的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、「健康ライフ学部」「地域生活学部」「生命環境学部」「いわき学部」の4学部を開設し、298名の入学者があった。いわき学部では、受講者が130名を超えるなど、市民の学習ニーズにあった学部を開講できた。

第15回「生涯学習フェスティバル」には、2,791名の入館者があり、前年度より参加者数がやや減となったものの、オープニングセレモニーでの「いわき濤笛会」による篠笛演奏やプラザ利用団体の各種展示や発表など、幅広い年齢層を対象に、多くの市民へ学習の場・交流の場を提供することができた。

いわきヒューマンカレッジや生涯学習フェスティバルの運営や講座の開催にあたっては、いわき市生涯学習支援ボランティアの会の支援があり円滑に運営することができた。

生涯学習プラザ事業の広報については、年間事業案内のほか、講座・イベントごとの詳細な案内チラシを作成し、市内公共施設での配布のほか、ホームページや、Facebook等のメディアで情報提供を行った。また、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

3 管 理 部 門 （ 法 人 会 計 ）

(1) 組織運営について

○組織運営

職員の退職等に伴う専門職員（学芸員）の定数補充のため、令和2年4月1日及び5月1日付けで3名の採用を内定した。今後とも、財団の持つ専門性の強化と、さらなる組織の活性化を図っていく。

○指定管理受託

いわき市生涯学習プラザは指定期間満了に伴い、新規申請、選考委員会におけるプレゼンテーションの結果、引き続き5か年（令和2年4月1日から令和7年3月31日）について、指定管理者に選定されることとなった。

○福利厚生

常勤職員に対して健康診断・人間ドックを実施し、診断結果によっては早急の再検査等を指導し、職員の健康増進に努めた。

(2) 人材育成について

○基本研修

ふくしま自治研修センターによる各種研修に13名を派遣したほか、施設職員を対象とした財団独自の「接遇研修」を開催した。またいわき労働基準協会主催の安全関係講習等も活用し、職場の安全向上に努めた。

○自主研修制度

自主研修は、4名が実施した。また、図書購入補助については、8名に専門書等の購入補助を実施した。

○研究紀要の刊行

事業団職員の資質の向上と調査研究の成果を市民に還元することを目的としている「研究紀要」は、第17号を化石・考古・民俗・文学の各部門の5編の原稿により刊行した。

(3) 情報発信について

財団ホームページに、財務諸表および指定管理受託施設の事業計画や、「出前講座」の募集等の詳細な情報提供したほか、「年報—平成30年度版—」を刊行し、関係機関等に配布した。

また、学校の長期休暇期間中の各施設の事業については、共同でのチラシを作製し、市内の保育園・幼稚園・小学校及び社会教育施設等に配布し、広報を図り、参加者増に努めた。

(4) 啓発事業について

出前講座は、9団体(中学校1、公民館6、その他2)、計20回の講座依頼があり、延べ455人が受講した。

「たからものずかん」は、事務局調査係が担当し、第7巻『いわきの弥生時代』を刊行した。小学校や各種施設に配布するとともに、来館者等への使用を想定している。

また、普及活用事業や、出前講座のテキストとして活用している「みんなで学ぼういわきの歴史」を、1万部増刷した。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
臨時 書面決議	第1号	評議員の選任について	平成31年4月12日	平成31年4月12日
定時	第1号	平成30年度決算の承認について	令和元年6月25日	令和元年6月25日
臨時 書面決議	第1号	理事の選任について	令和元年10月17日	令和元年10月17日

2 理事会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号 第2号	平成30年度決算の承認について 令和元年度定時評議員会の招集 について	令和元年5月29日	令和元年5月29日
第2回 書面決議	第1号	令和元年度臨時評議員会の招集 について	令和元年10月11日	令和元年10月11日
第3回 書面決議	第1号	公益財団法人いわき市教育文化 事業団理事長の選定について	令和元年10月24日	令和元年10月24日
第4回	第1号	給与等に関する規程及び定年退 職者の再雇用に関する規程の改 正について	令和元年12月24日	令和元年12月24日
第5回 書面決議	第1号 第2号	令和2年度事業計画及び収支予 算について 令和2年度臨時評議員会の招集 について	令和2年3月24日	令和2年3月24日

3 役員等に関する事項

評議員7名、理事8名、監事3名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
就任	平成31年4月13日	評議員 高田 悟	
	令和元年10月18日 令和元年10月25日	理事 新妻 英正 理事長 新妻 英正	
辞任	令和元年10月24日 令和元年10月31日	理事長 上遠野洋一 理事 上遠野洋一	
	令和2年3月31日	評議員 緑川 伸幸	

IV 職員に関する事項

令和2年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	2	—	—	1	4
調査係	—	—	1 (1)	3	—	1	8	13 (1)
計	1	3	1 (1)	5	0	1	9	20 (1)

2 施設

区分	館長 所長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	1	1	—	—	2	—	5	9
伝承郷	1	1	—	1	—	—	5	8
勿来関 文学歴史館	1	—	—	1	—	1	2	5
アンモナイト センター	1	—	—	—	1	1	3	6
考古資料館	1	—	(2)	(3)	—	—	2	3 (5)
いわき海浜 自然の家	1	2	1	3	—	1	9	17
生涯学習 プラザ	1	1	1	2	—	—	6	11
計	7	5	2 (2)	7 (3)	3	3	32	59 (5)

合計	8	8	3 (3)	12 (3)	3	4	41	79 (6)
----	---	---	----------	-----------	---	---	----	-----------

前年度 合計	9 (1)	9 (2)	5	9 (1)	6 (1)	4	35	77 (4)
-----------	----------	----------	---	----------	----------	---	----	-----------

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	14
2 正味財産増減計算書	15
3 財務諸表に対する注記	18
4 財産目録	20

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	227,370,168	200,651,323	26,718,845
未収金	11,596,106	7,267,015	4,329,091
前払金	0	306,681	△306,681
立替金	100,534	84,209	16,325
仮払金	0	14,640	△14,640
未経過通信運搬費	3,970	3,810	160
未経過租税公課	5,000	29,200	△24,200
流動資産合計	239,075,778	208,356,878	30,718,900
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			
器具・備品	13	13	0
リース資産	0	14,326,701	△14,326,701
電話加入権	9,000	9,000	0
その他固定資産合計	9,013	14,335,714	△14,326,701
固定資産合計	10,009,013	24,335,714	△14,326,701
資産合計	249,084,791	232,692,592	16,392,199
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	72,853,342	62,320,897	10,532,445
未払消費税	21,076,800	7,194,500	13,882,300
預り金	1,066,945	3,832,271	△2,765,326
賞与引当金	13,439,747	11,658,196	1,781,551
短期リース債務	0	14,877,143	△14,877,143
流動負債合計	108,436,834	99,883,007	8,553,827
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	108,436,834	99,883,007	8,553,827
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	130,647,957	122,809,585	7,838,372
正味財産合計	140,647,957	132,809,585	7,838,372
負債及び正味財産合計	249,084,791	232,692,592	16,392,199

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 (A)	1,000	1,000	0
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
② 事業収益 (B)	554,371,224	550,947,027	3,424,197
文化財調査受託料	93,946,360	116,742,600	△22,796,240
施設指定管理料	448,648,000	420,552,162	28,095,838
1 市立草野心平記念文学館	75,073,000	68,670,000	6,403,000
2 市草野心平生家	3,224,000	3,151,000	73,000
3 市暮らしの伝承郷	49,420,000	40,842,000	8,578,000
4 市勿来関文学歴史館	36,323,000	32,909,000	3,414,000
5 市アンモナイトセンター	25,256,000	17,211,000	8,045,000
6 市考古資料館	16,513,000	13,459,000	3,054,000
7 県いわき海浜自然の家(県)	148,002,000	145,100,000	2,902,000
8 市生涯学習プラザ	94,837,000	86,213,000	8,624,000
9 市勿来勤労青少年ホーム	0	12,997,162	△12,997,162
施設事業受託料	7,479,214	7,639,105	△159,891
1 いわきヒューマンカレッジ	3,792,800	3,780,000	12,800
2 未来キッズ生き生き事業	2,842,406	3,578,305	△735,899
3 勿来関公園体験学習施設管理事業	283,400	280,800	2,600
4 心のケアが必要な子ども対象事業	560,608	0	560,608
施設利用料	4,296,350	6,008,180	△1,711,830
出版物頒布料	1,300	4,980	△3,680
③ 受取負担金 (C)	0	0	0
講師派遣料	0	0	0
④ 受取寄附金 (D)	0	0	0
寄附金	0	0	0
⑤ 雑収益 (E)	722,034	763,576	△41,542
受取利息	5,511	5,511	0
雑収益	716,523	758,065	△41,542
経常収益計 (A~E)=(F)	555,094,258	551,711,603	3,382,655
(2) 経常費用			
① 事業費 (G)	503,064,929	517,694,336	△14,629,407
給料手当	109,706,969	116,138,521	△6,431,552

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
賃金	101,098,406	107,715,997	△6,617,591
賞与引当金繰入額	11,137,897	10,580,470	557,427
共済費	39,932,432	39,657,553	274,879
報償費	4,943,200	6,692,610	△1,749,410
旅費	2,590,422	5,028,856	△2,438,434
消耗品費	15,717,882	12,029,547	3,688,335
被服費	505,708	315,930	189,778
燃料費	7,374,194	7,841,327	△467,133
食糧費	339,473	421,845	△82,372
印刷製本費	17,687,155	16,027,017	1,660,138
光熱水費	28,199,905	32,943,661	△4,743,756
修繕費	12,278,960	7,350,760	4,928,200
医薬材料費	49,779	43,169	6,610
通信運搬費	5,498,035	7,262,122	△1,764,087
広告料	558,712	532,502	26,210
手数料	1,691,039	1,155,002	536,037
保険料	925,923	1,184,291	△258,368
委託料	83,090,348	80,889,878	2,200,470
使用料及び賃借料	17,583,620	20,565,070	△2,981,450
工事請負費	622,980	2,600,770	△1,977,790
原材料費	243,076	377,554	△134,478
負担金	307,242	252,500	54,742
公租公課	24,237,084	22,445,455	1,791,629
消耗什器備品費	2,110,130	1,618,380	491,750
減価償却費	14,326,701	15,155,040	△828,339
支払利息	307,657	868,509	△560,852
② 管理費	44,190,957	25,475,516	18,715,441
報酬	190,900	224,100	△33,200
給料手当	20,553,787	9,054,635	11,499,152
賃金	3,758,976	4,393,121	△634,145
賞与引当金繰入額	2,301,850	1,077,726	1,224,124
共済費	5,985,196	3,790,484	2,194,712
報償費	135,600	138,600	△3,000
旅費	378,867	249,713	129,154
交際費	25,000	5,000	20,000
消耗品費	968,262	363,011	605,251
燃料費	66,719	64,824	1,895

(単位円)

科 目		当年度	前年度	増減
食糧費		18,025	18,312	△287
印刷製本費		2,570,855	1,048,248	1,522,607
光熱水費		84,338	94,964	△10,626
修繕費		387,244	0	387,244
通信運搬費		262,768	236,196	26,572
広告料		0	0	0
手数料		548,316	384,150	164,166
保険料		55,690	73,320	△17,630
委託料		600,059	236,856	363,203
使用料及び賃借料		1,031,949	1,007,407	24,542
原材料費		0	0	0
負担金		591,910	475,798	116,112
補償費		0	12,816	△12,816
公租公課		3,210,666	2,526,235	684,431
消耗什器備品費		463,980	0	463,980
経常費用計	(G+H) = (I)	547,255,886	543,169,852	4,086,034
当期経常増減額	(F-I) = (J)	7,838,372	8,541,751	△703,379
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	(K)	0	0	0
(2) 経常外費用				
① 過年度損益修正損				
リース料修正損		0	564,893	△564,893
経常外費用計	(L)	0	564,893	△564,893
当期経常外増減額	(K-L) = (M)	0	△564,893	564,893
当期一般正味財産増減額	(J+M) = (N)	7,838,372	7,976,858	△138,486
一般正味財産期首残高	(O)	122,809,585	114,832,727	7,976,858
一般正味財産期末残高	(N+O) = (P)	130,647,957	122,809,585	7,838,372
II 指定正味財産増減の部				
基本財産運用益		1,000	1,000	0
一般正味財産への振替額		△1,000	△1,000	0
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0
指定正味財産期首残高	(R)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	(Q+R) = (S)	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	(P+S)	140,647,957	132,809,585	7,838,372

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

平成26年度より公益法人会計基準（平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）

(2) 固定資産の減価償却方法

器具・備品 定率法

リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

(3) 引当金の計上基準

・退職給付引当金

期末在職者の退職金支給に備えるため、中小企業退職共済制度に加入しており、同制度による給付額と退職金要支給額が同額であるため、退職給付引当金は計上していない。

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、当期に帰属する期間の支給見込み額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

ファイナンス・リース取引（所有権移転外ファイナンスリース）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

なお、重要性の乏しいリース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円
合 計	10,000,000円	0円	0円	10,000,000円

3 基本財産の財源等の内訳

基本財産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—
合 計	10,000,000円	(10,000,000円)	(0円)	—

4 固定資産の取得価額、減価償却及び償却額累計額及び当期末残高及び減損損失

固定資産の取得価額、減価償却及び減損損失累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却及び 減損損失累計額	減価償却	当期末残高
器具・備品	7,541,762円	7,541,749円	0円	13円
リース資産	47,453,239円	33,126,538円	14,326,701円	0円
電話加入権	449,904円	440,904円	0円	9,000円
合 計	55,444,905円	41,109,191円	14,326,701円	9,013円

5 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりである。

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	11,596,106円	0円	11,596,106円
合 計	11,596,106円	0円	11,596,106円

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産運用益 基本財産受取利息	1,000円
合 計	1,000円

財 産 目 録

令和2年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	事務局、施設7か所	手許保管	246,000
郵便振替	ゆうちょ銀行	運転資金	96,278
預金	普通預金		
	東邦銀行湯本支店	運転資金	177,504,400
	東邦銀行湯本支店	運転資金	0
	東邦銀行湯本支店	運転資金	0
	いわき信用組合湯本支店	運転資金	5,192,336
	いわき信用組合湯本支店	運転資金	4,145,594
	大東銀行湯本支店	運転資金	88,181
	福島銀行湯本支店	運転資金	97,379
	大和初外銀行杵伊支店	運転資金	0
	定期預金		
	いわき信用組合湯本支店	運転資金	10,000,000
	大東銀行湯本支店	運転資金	10,000,000
	福島銀行湯本支店	運転資金	10,000,000
	大和初外銀行杵伊支店	運転資金	10,000,000
未収金	いわき市、檜葉町、福島県等	文化財調査受託料未収等	11,596,106
立替金	いわき市	2月分藤原収蔵庫電気水道料金	100,534
未経過通信運搬費	切手	在庫	3,970
未経過租税公課	印紙	在庫	5,000
流動資産合計			239,075,778
(固定資産)			
基本財産			
定期預金	東邦銀行湯本支店	市出捐金	10,000,000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公1事業目的保有財産	13
電話加入権		公1・法人会計事業目的保有財産	9,000
固定資産合計			10,009,013
資産合計			249,084,791
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員3月分賃金等	9,817,569
	物件費	業者に対する未払額	63,035,773
未払消費税	いわき税務署	元年度消費税	21,076,800
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		1,066,945
賞与引当金			13,439,747
流動負債合計			108,436,834
固定負債合計			0
負債合計			108,436,834
正味財産			140,647,957